茨木市立　西中学校　学力向上ステップアップ計画

平成２５年３月作成

1　学力向上ステップアッププラン２年目（H24年度）について

①　児童・生徒の状況

（１）学習事項の定着（学力）について

成果　**著しく高い成果**……**学校全体の学力の向上、正答率40%以下の生徒の割合の減少**。

成果　**著しく高い成果**……**学校全体の学力の向上、全体正答率が高くなる（２３年度比）。**

課題　**引き続きある課題**……『無答率』のや『文章問題や知識活用型問題』での正答率は数的データーによる結果が明確には出るに至っていない。

（２）「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

成果　**高い成果**……生活＝将来の夢･目標を持っている。友達関係は良好。人へ の 態 度 は健全でやさしい。学級･生徒会活動は活発。

著しく高い成果……授業　＝「自分の考えを発表する機会や話しあう活動」や「自分の考えを書く、説明する」は良好。

成果……生活＝地域行事参加、校則遵守、家庭での生活習慣（睡眠、会話）は良好。

課題　**引き続きある課題**……①授業と家庭学習＝宿題や授業の復習、さらに苦手教科克服やテスト後のふり返りの学習活動＝『自学自習力』が弱い。

②「読書が好き」が低い。

課題＝　授業　＝「授業への意欲・関心等（好き・大切）」が低い。

生活＝家庭での学習習慣（授業の復習、テスト後のふり返り）が総じて弱い。

体力向上

②　学校の取組み

成果

①各教科で時間割内教科会議をはじめとした教科単位の学力向上・授業改善の話しあいと取り組みが実施された。

②その教科単位の取り組みの軸になった「授業４ヶ条」（着席・準備・礼・構え）と「授業３ヶ条」が定着した。

課題と方針

①「指導と評価の一体化」＝授業３ヶ条の定着から「３ヶ条指導」と「テスト」と

「観点別絶対評価」の取り組みの一体化を引き続きめざす。

②研究推進３グループ制

上記①の取り組みを進めるために研究推進組織（グールプ）を３グループ制とし、それぞれのグループに指導者・助言者を外部より招く取り組みを継続させる。

荒木先生(貝塚二中教諭) G…数学・社会

杉本教授（京都外大）G…理科・英語・技家

谷指導主事（市教育委員会）G…国語・保体・音楽・美術

③３グループの代表を評価実践委員会を引き続き継続させる。

④上記①を保障し、②③を実態化するため、教科代表を輪番制にしない。

2 ３年間（H23～25年度）の取組について

1 ３年間の重点課題

重点課題		検　証　軸	２５年度の到達目標
①	考える力	「書くこと」 授業内で自分の考えをまとめるため書く場面を設定する。	(1)学力調査結果で、無答率を半減する。 (2)学力調査結果で、A問題とB問題での学力差(ｱﾝﾊﾞﾗﾝｽ)を少なくする。 (3)写すだけのノートでなく、授業３観点にもとづくノート活用の割合を高める。 (4)生活調査結果で ①家で授業の予習・復習（宿題含む）をしている割合を増やす。特に復習を「している」の割合は倍増させる。 ②家でテスト後に間違えたところを勉強「している」の割合を倍増させる。 ③授業での「考える」関係の項目と「書く」「聴く・伝える、説明する」項目をH24年度比較で維持・向上させる。 ④「読書好き」を全国平均以上にする。 (5)不登校生を減少させる。
②	聴く力 伝える力	「話しあい活動」 授業内で自分の考えを伝える、人の考えを聴く場面を設定する。	
③	ふり返る力	①生徒 ＝「ノートの活用」 授業まとめとしてその授業のふり返りを自分でまとめる。 ②教師＝「指導と評価の一体化」 授業内や定期テストで授業３観点にもとづく「評価活動」を研究・推進する。	
	※上記を授業３観点とする。	※上記を重点課題育成のための検証軸の場(具体行為像)とする。	

３年間 共通の計画	年度ごとの計画
教科力（組織力） の向上 (1) 共通目標と共通テーブルの定着と活用推進 ①授業７ヶ条（J7）の取り組みを企画・推進する。 授業始め４ヶ条（①準備 ②構え③礼 ④聴く）＋ 授業３ヶ条（①考える ②聴く･伝える ③ふりかえる） ②授業交流共通テーブルと共通評価項目の活用 (2)「授業」「テスト」「評価」の一体化をめざす ①指導と評価の一体化をめざす（絶対評価）。 ②研究推進３グループ制をひく。 ③３グループ代表で評価実践委員会を設立する。 ④教科代表を輪番制で選出しない。 **自治力（生指力）** の向上 (3) 教師の活動（学指）と生徒の活動（生徒会）の連携推進 生徒集会→合同班長会を軸にした生徒会活動を通して学習主体・学習集団づくりを推進する。 **連携力** の向上 (4) 教師活動（学校）と保護者・地域・小学校との連携推進 「ステップアッププラン」と「家庭へのヒント」の協同性を高める企画の立案と推進。	平成２４～２５年度 ①授業３ヶ条の設定 ②時間割内教科会議の設定 ③「授業から授業へ」の基本路線の設定 ④生徒の評価活動（ふりかえり）の設定 ⑤教師の評価活動の設定 生徒に対する評価活動（日常授業で） 授業者に対する評価活動（自己･生徒･教師評価） ⑥・研究授業体制と研修会の継続 ・オープン授業の設定（評価活動と連動） ⑦青健協のアンケート実施 ⑧不登校生の減少をめざす。 ⑨体力の向上をめざす。 ⑩全校合同班長会を開催する。 ⑪生徒集会を軸に学指・生指・生徒会の協同率を高める。 ⑫中間総括と年度末総括の実施と学力・生活実態調査結果をもとにステップアッププランの点検をおこなう。 平成２５年度 学力・生活実調査、学校診断による３カ年計画（H25 到達目標）の検証 の検証

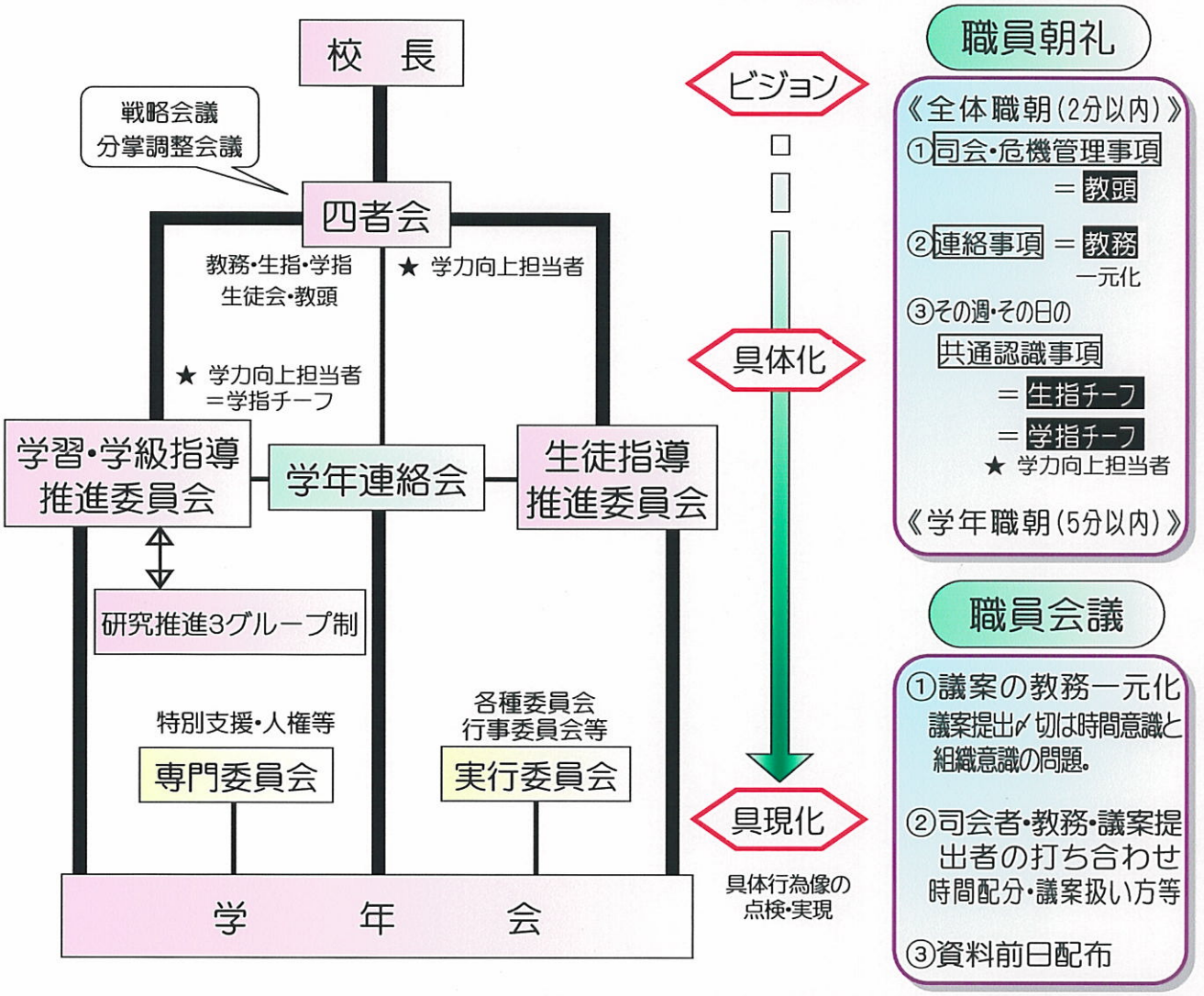
推進体制

③ 校内ＰＤＣＡ組織体制

方針作成・意志決定機関

めざす生徒像

共通認識化機関



★学力向上担当者が担当者として機能する場＝四者会（週1、戦略&分掌調整会議メンバー）、学習・学級指導推進委員会（週1、学習・学級指導統括委員会チーフ）、職朝（学習・学級指導共通認識事項発言者）。